実践記録

「笠縫東いきもの自然学校」プログラム①
「ほたるフェスタ」

実施日	活動場所	参加者	講師	スタッフ
2022.5.28 18:00～21:00	笠縫東まちづくりセンター 葉山川・中ノ井川	62名	鈴木道弘先生	7名（まちセン1名　まち協2名　市3名 井阪様）

開校式　18:00～18:30

司会・進行　水野（市）

場所　大会議室

1.「笠縫東いきもの自然学校」今井校長の挨拶（今井様）

2.「笠縫東いきもの自然学校」と本日のプログラム説明（福永・中村様）

3. スタッフ紹介（水野）

4. お願いと次回プログラムの説明（成相）



開校式

ホタルの折り紙・うちわ作り　18:30～19:00

講師　福祉・健康部会（まち協）　各テーブルに一人配置

場所　小会議室　研修室　　保護者は大会議室で待機

1. 折り紙でホタルづくり

※講師の説明を聞き苦労しながらも熱心に作成する姿が見られた。

2. 作ったホタルやシール、折り紙をうちわに貼り付け装飾する。

※友だちと協力しながら作成する姿も見られた。



折り紙でホタルづくり

ホタルに関する話　19:05～19:35

講師　鈴木道弘先生

ねらい　ホタルの生態や生育環境を学ぶ

生物多様性の学び

ホタルを通して、生物多様性の恩恵や人間生活との関わりを考える。

恩恵・・文化的サービス　関わり・・生物多様性に与えている負荷



ホタルをうちわに貼り付けて

1. パワーポイントでクイズも交えながら説明

資料　ホタル学習「ホタルと友だちになろう！」　42枚のスライド

①「ホタルを見たことがありますか？　さわったことがありますか？」

②「ホタルはなぜ光るのですか？　ホタルの光は・・」



鈴木先生の話（PP 資料）

・目を楽しませ心を和ませる　・自然のすばらしさを伝える　・ふれあいの場をつくる　・世代を超えた交流を促す　・ふるさとの楽しい思い出をつくる

➡【生物多様性の重要性に気づく】・・生物多様性の恵みの一つ「文化的サービス」に気づく。

③「日本に生息するホタルの種類は何種類でしょうか？」
④「ホタルと同じ昆虫の仲間はどれでしょうか？」
⑤「ホタルのオス・メスの違いは分かりますか？」
※オスは発光器が二段でメスより小さい　メスは発光器が一段
⑥「ゲンジボタルの幼虫が大好きな食べ物は何でしょうか？」
⑦ゲンジボタルの一生について
⑧「成虫は自然界で何日生きていると思いますか？」
⑨ホタルがすむ環境の変化

・河川改修・浚渫工事・宅地開発などによる環境変化
・人間の暮らしの夜行性化・・・ホタルにとっては「光害」
➡ 【生物多様性と人間生活との関わりを考える】・・日常生活や社会活動が生物多様性にどのように関係しているか、またどのような負荷をあたえているかについて気づく。

⑩ホタルから思うこと

・生き物のつながり「生態系」について
・人間は生態系の頂点。自然の恵みの中で、いろいろな生き物たちに支えられ生きている。 ➡ 【生物多様性の重要性に気づく】
・自然の営みの中、人間の豊かさや便利さだけを求めるのではなく、いろいろな生き物たちが生きている環境を考えること。生物多様性が大切。➡ 【生物多様性と人間生活との関わりを考える】

⑪次世代のために
※持続可能な社会　資源循環型社会（SDGs）
見つめよう！私たちの暮らし方、未来の地球環境のこと

ホタル観察　19:55～20:40

1. トイレ休憩・諸注意・人数確認
2. ホタル観察
観察ルート・・まちセン→葉山川→環境衛生センター→集町中ノ井川→まちセン
※葉山川、中ノ井川で、数匹のホタルを観察することができた。
※環境衛生センター付近で、ヒヤリとする場面が見られた。➡安全対策の必要性

振り返り（今年度は各家庭で）

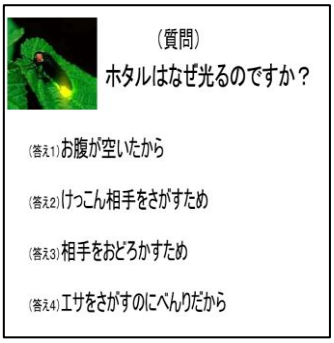
※振り返りアンケート用紙を配布し後日まちセンへ提出していただくようお願いしたが4名しか回収できず。

■人数確認・参加者解散　21:00

■スタッフ反省会
今回は6月15日（水）に実施

■本実践の評価は別紙参照
別紙　令和4年度「笠縫東いきもの自然学校」プログラム①「ほたるフェスタ」の評価


クイズ形式で楽しく



スライド「ホタルはなぜ光るの」



スライド「ホタルがすむ環境変化」


葉山川

